



Sj

Monthly The Safety Japan

人とクルマのいい関係をめざして

3
2009 MARCH

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社
安全運転普及本部内
電話 03(5412)1736
●編集人：千葉英雄
●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。
株式会社クリエイティブ 安全運転普及本部係
電話 03(3405)1191

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

今月の スポット

毎日、自転車を使う立場として、自転車利用者とドライバーの皆さんの意識が互いに向上して、少しでも交通事故件数が減少することを願ってやみません。(特集より)

CONTENTS

- 特集：私が実践している交通安全 1
- 事故を防ぐ原点は一人ひとりの意識と行動 4
- 私の提言 4
- 池田克史/交通事故死者数5500人以下、死傷者数100万人以下を達成。今後、更に死者数半減をめざす 5
- TRAFFIC ADVICE—交通安全センターから 5
- (株)シーテック/セーフティ・エコドライブ研修 エコドライブと安全運転の両立をめざすための研修 5
- TOPICS 5
- 自動車教習所との連携/青森モータースクールで Honda自転車シミュレーターを使った高校生への安全教室を実施 5
- NEWS REVIEW 5
- ホンダ輸送グループ安全協議会 平成20年度年間無事故競争表彰式 5
- DOCUMENT EYE 6
- 路側帯を歩く歩行者と歩行者の側方を通過するクルマを観察する 6

特集：私が実践している交通安全 事故を防ぐ原点は一人ひとりの意識と行動

平成20年の交通事故死者数は5155人と8年連続で減少、負傷者数も94万5504人と10年ぶりに100万人を下回った。今後より一層、事故を減らしていくためには、私たち交通参加者一人ひとりが安全意識をもって行動することが重要である。今回は本紙読者の方々を中心に、一人の運転者、交通参加者として日頃、交通安全のためにどのようなことを心がけ、行動しているのかがうかがった。



小学生 の声



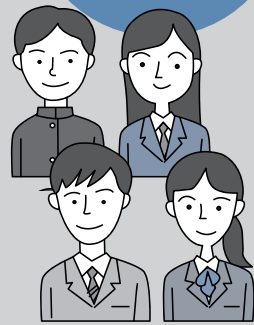
本紙が小学5、6年生に「怖いと思うクルマは？」と聞いたところ、多くの小学生が「スピードを出しているクルマ、バイク」を挙げた。「渋滞を避けるため

平成20年中に発生した交通事故件数は76万6147件で、4年前のピーク時に比べ減ったとはいえ、1日平均2000件以上の事故が各地で起きている。そうした交通状況の中で歩行者として、また、自転車利用者として交通社会の一員である小学生はどのようなことに直面し、問題として感じているのだろうか。

スピードを出して 走らないうでほつ

「ドライバーに気をつけてほしいこと」については、ほとんどが「スピードを出して走らないようにしてほしい」と答えている。ドライバーは幹線道路などの広い道路と、歩行者との距離が接近する通路や住宅街の道路では、同じ速度でも歩行者が受ける感覚が違うことに注意しなければならない。「人や自転車に気がついてほしい」、「前をちゃんと見て運転し

高校生 の声



てほしい」という回答もあり、相手を見ていないという安全運転の基本を忘れたドライバーの存在が浮かぶ。この他、「一時停止の場所は一時停止してほしい」、「ウィンカーをちゃんとつけてほしい」と回答した小学生もいた。一方、小学生が「気をつけていること」では、「自転車に乗っている時は、歩

ている人がいたら速度を落とすようにしている」、「なるべく道路の端を歩く」、「交差点を渡る時、右左右をちゃんと見る」。自転車では「必ず前を見て走る」、「左側通行で走る」と回答している。さらに、本紙は自転車や原付で通学している高校生にも、運転する上で「気をつけていること」を聞いてみた。

寺田朱李さん

千葉県立柏高等学校1年生

私は毎朝、駅の駐輪場から学校までの約20分間、自転車を利用しています。日頃乗っている時に注意していることは、なるべく勢いよく曲がらないことです。曲がり角では、見えないところから人が来ているか、わからないからです。自分が気をつけて自転車に乗っていても、怖いと感じることもあります。それは、スピードを出している速いクルマ。交差点や道路を横断しようとする時、速い速度で来られると本当に怖いです。また、信号が赤に変わったにもかかわらず、交差点に入ってくるクルマは怖いです。ドライバーの皆さんには、こうした点を見直してほしいと思います。

村川雄亮さん

千葉県立柏高等学校2年生

私は毎日、自転車で高校に通っています。その時に気をつけていることは「徐行運転」と「安全確認」です。一見、普通のことのようですが、私たちの高校の通学路は県道がある上に、小学生が多いので、少しでも油断すると、事故につながってしまいます。そんな中、毎日、登下校する私たちにとって怖いのは、十字路でフツと突然現れるクルマです。特に、トラックが現れた場合は、一瞬息が止まる感じがします。ですから、ドライバーの皆さんには信号機がなくても、十字路など交差点での安全確認を気を抜かずに行ってほしいです。毎日、自転車を扱う立場として、自転車利用者とドライバーの皆さんの意識が互いに向上して、少しでも交通事故件数が減少することを願ってやみません。

佐藤雄也さん

山梨県立山梨園芸高等学校2年生

私が原付での通学時に特に気をつけていることは「スピードを出し過ぎないこと」「よく見ること」です。これは、私の通学路には果樹園や側道から作業車が急に飛び出して来るケースも多いことから、危険回避のために身をもって感じていることです。

一番怖いと感じることは、クルマが原付の存在を見落としがちなことです。原付が走行する直前を急に飛び出してきたり、原付が遅いからといって追い越しながら幅寄せしてきたりと、ヒヤッとするのがたくさんあります。また、前方を走行中のクルマがウィンカーも出さずに左折することもあって、車間距離をとったり、クルマの動きに注意していかないれば巻き込まれていたケースもたくさんありました。ドライバーの皆さんは、原付の存在に意識を払って原付の法規速度や特性を理解した上で走行してほしいと思います。

森下茜さん

山梨県立山梨園芸高等学校2年生

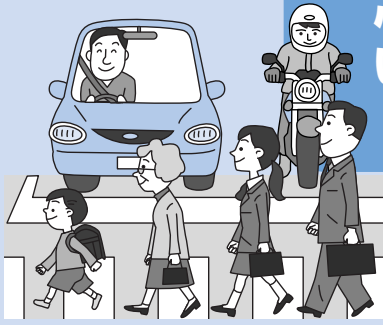
通学で一番気をつけているのは雨の日の運転。雨の日はすべり易く、急ブレーキをかけることや、しっかりと減速するように気をつけています。もう一つは、周りをいつも気にするようにしていることです。部活動で帰りが遅くなる私は、街灯が少ない道路でいつクルマや人が飛び出してくるかわからない箇所も多くて、そこにはたくさんの危険が潜んでいるからです。毎日、「危険予測」の大切さを感じながら、常に前方に注意して運転しています。

しかし、原付は前方だけでなく360度気をつけなければなりません。原付は法定速度がクルマと違って低いため、後方からのクルマにも常に注意しなければなりません。そのため、左端を走行してこれ以上寄れない道路で、後方のクルマにあおられたり、幅寄せされた時や、信号の変わり際に無茶な追い越しをされる時、クルマが怖いと感じます。

高校生の意見からは、安全確認を怠る、ルールを無視する、スピードを出すドライバーの存在が指摘され、ある意味でそれを反面教師として、安全運転に気をつける姿勢が見える。

本紙読者の方々は、一人の運転者、交通参加者として日頃、交通安全のためにどのようなことを心がけ、行動しているのだろうか。メールやアンケート等を通じて、寄せられた読者の方々の意見を紹介する。

1 歩行者に対して心がけていること



●遠藤友美雄さん・兵庫県西脇市生活環境課
通勤中に横断歩道で待っている子どもを見たら、止まって渡らせてあげようとしています。彼らが中学生であればあと4~5年、小学生でも早ければ6~7年でドライバーになるので、譲り合いの心が養えるかどうかは大きいと思います。

●埼玉県・36歳・男性
私の暮らしている地域は子どもが相対的に多く、子どものトリッキーな動きを危険予測しながら運転するように心がけています。

●20代・会社員
自車で歩道通行をする際は、歩行者を最優先にする。

2 速度・車間距離で心がけていること



●高橋進さん・会社員
私は、クルマの運転において楽しいと感じる時は、「先が見える時」。そこで安全運転として実践していることは、前のクルマとの車間距離の保持です。前車の距離を見るのではなく、さらにその前のクルマの距離を見ることが、アクセルペダルを踏む、離すことの微調整により速度を調節しております。

●40代・元指導員
私の場合、とにかく「車間距離をとる」という一般的な、速度から15を引いた距離とか、2秒とか言われますが、最低でも3秒、通常は4秒くらいとっていると、車間距離をとることで、先の方の状況の把握もよくなりますし、後続車に対しても余裕を持ったブレーキで止まることを知らせることが出来ます。人間ですから時に脇見や油断が生じてしまうこともありますが、そういったミスを補うためにも車間距離をとるようにしています。

●渥美孝之さん・東京都立足立東高等学校教諭
当校では毎朝、生徒の有志6~7名が隣にある小・中学校の児童生徒が事故にあわないように立ち番を行っています。この小・中学校周辺の道路の一部はスクールゾーンとなっており、児童生徒の通学時間帯はクルマの進入が禁止されています。ところが、それを守らずにスクールゾーンを走行するクルマがあると、登校中の児童生徒にとって脅威になります。それを解消するため、通学時間帯に当校の生徒が街頭に立つことで、クルマが進入してこないように見守っています。さらに通学時間帯の方々にも元気づけ「おはようございます」の挨拶心がけています。ドライバーにはルールを守ることがもちろんですが、登下校の時間帯は道路に子どもがいるということを意識してほしいと思います。

●40代・男性
交差点の右左折時に歩行者、自転車の存在を意識するようにしている。

●大木孝夫さん・日本梱包運輸倉庫(株)ドライバー
全長約17m、積載量8.5tの大型トレーラーを運転し、ホンダ車の運搬をしています。交通安全と商品安全を心がけて運転しています。気をつけている点は、速度と車間距離。商品を事故なく安全に輸送するためには、高速道路では80km/h以下、一般道では必ず法定速度を守り、車間距離は、「ゼロイチ、ゼロニ、ゼロサン」とカウントし、自分のクルマの長さ以上は必ずとるようにしています。

●中村富貴愛さん・岡山県笠岡市協働のまちづくり課
スピードを落とさずゆっくり走る。そうすると周囲がよく見える。後続のクルマが連なる横(安全な場所)に寄って先に行かせてあげる。

●恩智敏夫さん・熊本県立阿蘇清峰高等学校教諭
基本的なことですが、自分がクルマを運転する時はスピードを控える、一時停止場所では止まることを心がけています。これは自転車通学をしている生徒たちにも、守るように伝えています。

●加藤伸英さん・ユタカ自動車学校豊橋校教習指導員
交差点に近づいたら、その周辺をできるだけ目配りしています。自分が優先道路を走っている場面でも、「クルマや自転車が飛び出してくるかもしれない」と考えるようにしています。また、車間距離も「速度の読みから15を引いた数字(40km/hなら25m)」を目安に確実にとるようにしています。ドライバーは歩行者でもあるわけですから、歩行者の立場を考え、横断歩道の歩行者に対して看過せず停止する等、歩行者保護を常に意識してほしいと思います。

●熊本県・60歳・男性
「前車との車間距離…常に2秒以上を空けて走りましょう!」
2秒の時間の数え方は「安全(1秒)」「第一(1秒)」。2秒の距離の確認は前車の最後部が(電柱を過ぎてから)自車の最前部が通過。

3 安全確認で心がけていること



●大場富衛さん・仙南自動車学院教習指導員
周囲の状況をきちんと見ることができれば、判断や操作を間違える可能性は低くなります。運転において、一番怖いのは「見落とし」。特に、右左折時に歩行者や自転車、二輪車を見落としやすいので、意識して「見る」ことを心がけています。ヒラー(窓枠)の死角に隠れてしまうこともあるので、目だけでなく、顔も動かすようにしています。

●山上修平さん・ホンダウイングヤマガミ長谷本店
最近、年齢のせい、視野が狭くなっているように感じます。左から来るクルマに気づくのが遅れた経験もあり、首を振っての左右確認を心がけています。

●萩原義雄さん(高齢ドライバー)
踏切では、その先に自分のクルマが入るスペースがない時は絶対に踏切内に入らない。
雨の日の夜は対向車のライトが眩しく感じるのですが、できるだけクルマでの外出は控える。

●桜井幸弥さん(高齢ドライバー)
運転中、バックミラーやサイドミラーで周囲のようすをよく見ている。右左折する場合は先にある横断歩道に歩行者がいなければ、よく確認してから曲がる。耳が遠くなってきたので、運転中はカーステレオを使用せず、周囲の音に耳を澄ますようにしている。

●埼玉県・50代・男性
信号を通過する際は「青ヨシ!赤トマレ!」と目で指差し呼称をしている。
横断歩道を渡る際はたとえ青でも「右ヨシ!左ヨシ!」と指差し呼称をして横断している。

クルマを運転中は前後左右を確認するため、2秒間隔で視線を変え、危険を早く察知するように心がけている。
見通しの悪い交差点では必ず人やクルマが飛び出してくることを前提に徐行したり、アクセルを離していてもブレーキが踏めるようにして用心している。

●九州地方・60代・男性
左折時は左ドアミラーを見て、自分の目で見て最終確認!(二輪車の巻き込み防止)

●会社員(A)
三つの配り物(気配り、目配り、心配り)を携帯して行動しています。

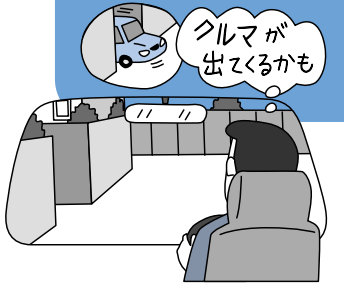
●埼玉県・52歳(N・M)
駐車場を出る時には、必ず左ヨシ!右ヨシ!と声を出し確認している(助手席に座っている時も)。自宅駐車場にミラーを取り付けて、スタートする前に目視と合わせ確認している。駐車場や施設から道路に出る時は2段階停止を必ず実行。

●50代・会社員
以前、バイクで通勤していた時のこと。前方の信号が赤信号で前には大きなダンパーが停止していました。その左側が空いていたので、すり抜けて赤信号で停止しようとして進んでいましたが途中で信号が青に。しかし、右側のダンパーは発進しませんでした。そのまま進めばダンパーの前に出ることができましたが、一旦ダンパーに並んで頭を出さず停止しました。その時です、右側から自転車が高スピードで横断帯を横切っていました。あのまま出たら衝突していたでしょう。日頃から心がけていた「見通しの悪いところでは必ず停止線の手前で一旦停止をする」行為が事故を防ぎました。その日の前までは何の意味があるのか、わからずただ実施していましたが、このことがあってからは、停止線の手前で止まること(安全な行動習慣)が事故を未然に防ぐことだと思い実施しています。

●40代・5児の父
週末は地域の子どもたちをクルマに乗せる機会が多く、また集まる場所に行くため、駐車場のバック時は後ろの様子を監視してから乗込み、他の大人と声を掛け合ってからバックしている。大人が居ない場合は、乗車すべき子どもを全員乗せてから目視によってゆっくりバックしている(ミラーには頼らない)。

特集：私が実践している交通安全

4 防衛運転のために心がけていること



●福井県・40代・男性
危険予測しながら運転している。もし、前方にいる自転車や歩行者がこけたら...とか。

●村上泰史さん・熊本県津奈木町役場
早めの合図、**早めのライト点灯**、メリハリのある運転。

●石塚昭夫さん・ホンダカーズ栃木東葉瀬店店長
ムダな車線変更はしない。急いでいるのか、片側二車線道路で左右のレーンをジグザグに走りながら、他車を追い越していくクルマも見られますが、そのような運転は危険。片道10km程度の距離であれば、到着時間は5分と変わりません。

●早川一弘さん・ホンダカーズ川崎都筑仲町台店店長
目が疲れるので、長時間の運転はせず、こまめに休憩をとるようにしています。目の疲れや、体調が悪い時などは、見落としや急ブレーキを踏む際の反応の遅れにつながります。雨の日は、路面がすべりやすくなり、制動距離が伸びるので、早めのブレーキを心がけています。また、急な飛び出しに備えて、いつでも止まれるように意識をしています。

●埼玉県・48歳・男性
私は乗用車に乗っていますが、本格的な雨が降っている時にドアミラーに水滴がつき後方を見ても見えにくい場合があります。これは後方を走る私のクルマも前方を走る相手からは見えにくいのではないかと思います。したがって、私は本格的な雨が降っている場合には、たとえ日中でもヘッドライトを点灯し前方の車

から確認しやすいようにしています。交通事故防止は自分が気をつけるだけではなく、**自分の存在を相手に知らしめることも防衛運転**だと思います。

●熊本県・30年無事故のゴールド免許者
交差点での右左折の場合、**30m以上手前でウィンカー**を出して、前車と後続車に知らせている。

●神奈川県・50代・男性
常に**2台前のクルマをよく見て動きを予測**し、対処できる車間距離とスピードを心がける。

●群馬県・30代・女性
駐停車しているクルマの脇を通る時は**危険を予測し、必ず徐行**をする。

歩道に面している道路に出る時は、左右の安全確認を念入りにし、いつでも止まれる速度で徐行する。

●32歳・会社員(A・O)
同乗者にやさしい運転。言い換えるとなるべくGがかからないように、**急ブレーキ、急ハンドル、急加速をしない**ということ。これを心がけると、自然と乗り心地がよくなり、事故の未然防止にも直結する。

●30代・男性
運転時は、信号が停止位置前で**黄色になったら止まる**。

●50代・7つの運転免許保有者
よく見る・見られる運転を心がけている。

●匿名
事故発生時の3原則「①等速」「②並行」「③時間差」を破る時には目視を確認。(等速：速度の変化がある時・特に減速時には早めのブレーキ、ミラーの目視、停止車間の維持等。並行：車線変更をする時・ミラー確認のみではなく、目視確認の実施、早めの合図等。時間差：交差点を通過する時・**青信号の際、歩行者信号に注意**する。青でも左右確認。アクセルオフとブレーキ準備。赤から青になった際、一呼吸おいての発進。

●40代・男性
①片側一車線の道路を走行時、反対車線が渋滞している場合は渋滞のクルマの隙間から人や自転車車が飛び出してくる可能性があるため、いつでもブレーキがかけられるように心がけている。
②自転車(特に高齢者や小学生)の後ろを走行する時は、急にセンターライン寄りに進路変更する可能性がある

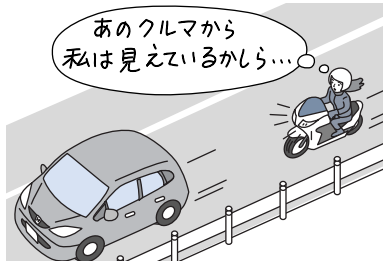
があるので**最徐行し自転車との間隔を大きくとって**から追い抜く。

③高速道路の追い越し車線を走行中、後方からスピードを出してクルマが迫ってきた時は、あわてて走行車線に進路変更をしないで十分に安全を確認してから行う。

●50代・男性
信号機のある狭い交差点では、**停止線より少し手前に停止**する(信号待ちで右左折車の衝突をさける)。後方よりクルマが近づいた時は、先に行かせる。
ヒヤリハットを経験した時は、家族に話をして共有化している。

●東京都・29歳・女性
バイクの時は、**クルマの死角に入らない**ように走行する。

●匿名
バイクや自転車の時は、自分が**見落とされているかも知れない**と常に思って運転。



●40代・男性
「くだらう」ではなく「かもかもしれない」と思うように心がける。バイク運転時は**相手はこちらを見ていない、ということ**を前提にして走行する。

●東京都・42歳・孤独なライダー
①自転車昼間点灯...現在、自転車で通勤をしていますが、朝でも自転車の前後のライトを点滅させ被視認性を高めています。約1年半前に昼間点灯を始めた際は、実施している人はほとんどいませんでしたが、最近は時々見るようになりました。最近の自転車は電池消費の少ないバッテリーライトが主流で、点灯してもペダルが重くならないし電池も思ったよりも食わないのでおすすめです。

②先に譲る...歩行、自転車、クルマ、バイク全ての交通活動において、合流の割り込みや、狭い道のすれ違いの際は、**先に駆け込むよりも先に止まって譲る**ほうが感謝されたり、成熟した余裕のある大人に見られ、はるかに気持ちがいいことに気がつき、なるべく実行しています。

5 運転する前に心がけていること



●武田忠久さん・藤井寺自動車教習所教習指導員
運転する時は平常心を保つことを意識しています。そのために、クルマで出かける時は時間に余裕を持つ、走行するルートを十分に確認しておくなどして、**自分がある状態をつくらない**ように気をつけています。クルマは便利な道具ですが、危険な一面も持っています。そうしたことを忘れず、常に運転に集中することが基本だと思います。

●三重県・30代・男性
私の「安全運転をするために気をつけていること」は、「**出発時間を早くする**」ことです。何のひねりもない当たり前の事かと思っても知れませんが私にとっては一番効果があります。「なぜ、急ぐのか?」というと、「遅れそうだから」「急げば、間に合つかもれないから」と出発が遅れたことが原因です。逆に早く出発した時には、「このままだと早く着きすぎる」と思い、赤信号がうれしくなるくらいんびり運転になります。

●井上英樹さん・兵庫県加東市総務部防災課
あわてず、あせらずをモットーに**相手の気持ちを考えて**譲り合いの精神で。

●桜井一男さん(高齢ドライバー)
ブレーキをしっかり踏めるように、運転する時は必ずスニーカーをはくようにしている。

●50代・男性
クリアな情報取得のために**各ウィンドーと灯火類の清掃は毎回手を抜かず実施**。ワイパーは四季交換でクリア視界。タイヤの空気圧点検は人任せにせず自分でやる。

●会社員・男性
乗車前にクルマを一周してチェックし、灯火類は常にきれいにしている。

●30歳(Y・O)
発進前に、必ず**同乗者全員のシートベルト着用を確認**する。

●40代・男性
バイクに乗る場合

①基本的なことですが**運行前点検を必ず実施**(フタと燃料)。必ず見る箇所は、前後ブレーキの握り・踏み加減の確認(レバー・ペダルのタッチ確認)・タイヤの空気圧・タイヤの痛み(釘など刺さっていないか?)・灯火類の確認・燃料の確認

②乗車前・後の車体の清掃と磨き。常に綺麗に乗ることで、車両を大切に扱う気持ちから各操作が丁寧になり、結果的に安全運転につながる(急の付く運転が無くなる)。

6 歩行者として心がけていること

●50代・男性
横断歩道前で信号待ちしている時は、**2、3m位後方で待つ**ようにしている。

●匿名
青信号でも左右の目視確認。交差点通過時、右左折車の動きを確認。

●50代・男性(K・Y)
歩行者や自転車の信号無視が男女かわからずかなり多い。特に、生活道路や一車線道路の交差点で。大人が、こんな子どもどもに守れとはとてもいえない。そこで、**他の人が信号無視をしても必ず信号を守る**ようにしている。そうすると、周りでも信号を守る人が、増えてきているような気がする。

●東京都・93歳・女性
道を歩く時は、**道路の端を歩いています**。信号待ちをする時は、ガードレールや電柱の後ろで待ち、猛スピードで通過するクルマの風圧にあおられないように気をつけています。また、周囲が暗くなってきたら外出は避けています。

たくさんのご意見ありがとうございました。皆様からのご意見は今後の紙面づくりの参考とさせていただきます。今後またたくさんのご意見をお待ちしております。(S)編集部